

アジアの留学先国としての日本は、学費が安く治安もよいイメージから、長らく一定の人気を得ています。しかし、近年、留学希望者の目は日本以外にも向いており、特に専門的な学びやキャリアを求める人は中国などにも魅力を感じています。こうした中で、今後の留学生募集については、次の3つがポイントになると思われます。

①部門連携により入口～出口を一気通貫で考える

近年、日本留学の目的が「学位取得」から「日本での就職」に変化しつつあります【P.26図表4】。そのため、募集広報においては、在学中のサポートから就職支援まで、一気通貫した取り組みが望まれます。現状、留学生募集は入試広報課が担当するケースが多いようですが、学生支援やキャリア支援を担当する部署と連携し、留学希望者に響く募集戦略を考える必要があります。

②インバウンドとアウトバウンドはセットで考える

日本人学生の海外への送り出しに力を注ぐ一方、留学生のための環境整備は後回しにしていないでしょうか。留学生が学びやすい環境整備と、彼らと学生生活を共にする日本人学生のための環境整備は、表裏一体です。別々に捉えていると、「留学から帰国した日本人学生が、海外で培った英語力やグローバルな視点を生かす学内での機会が乏しいために、留学前の状態に戻ってしまう」「留学生が日本人学生となじみず、退学してしまう」といった負のスパイラルに陥ります。アウトバウンドには抵抗感がないのに、インバウンドの施策強化に対して学内の反発が大きい場合、留学生と日本人学生の交流で得られるメリットを共有できるとよいでしょう。

③留学生募集を世界標準で考える

海外の大学では、欲しい人材を直接リクルートするダイレクトスカウトも一般的です。世界的に留学生獲得競争が激化する中、留日希望者からのコンタクト待ちではなく、能動的な働きかけが必要です。そもそも、これまでのやり方では留日希望者が欲しい情報が十分に到達していない現状があります【図表14】。HP上で募集要項が見つげにくかったり、日本語版しかなかったりすれば、その時点で進学先候補から脱落してしまいます。情報が翻訳され、Web上で見つけやすくなっているかどうか、見直

何のために募集するのかを 明確にしてこそ設計可能に これからの留学生募集3つのポイント

(株)ベネッセコーポレーション
大学グローバル事業部
グローバルビジネス開発課

富岡 拓也

とみおかたくや ●2008年(株)ベネッセコーポレーション入社。日本語教育事業開発などを経て、2023年より留学生募集サイト「Japan Study Support」企画運営に携わる。

<Japan Study Support>
<https://www.jpss.jp/ja/>

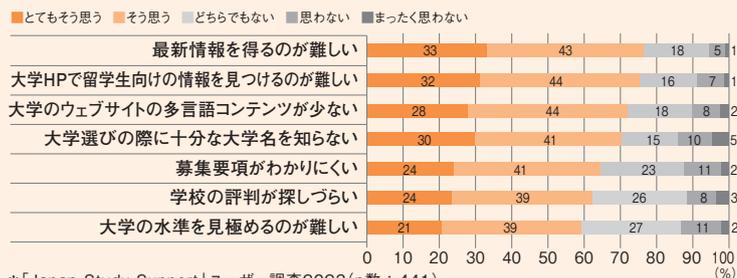


撮影 / 木藤富士夫

してみてください。そのうえで、留学先選びについて口コミがパワーを持つ今、オンラインやSNSを使った広報に力を入れるとよいでしょう。SNSは国により使われるアプリが異なることから、ターゲット国に応じた使い分けも必要です。入試についても日本ではデジタル化の動きは鈍く、オンライン出願が可能でも、その後は紙だったり、面接は対面のみだったり、世界標準とは言い難い状況です。留日希望者の立場に立った施策が求められます。

本来、留学生募集には「国際競争力を高めるために多様性を確保する」という目的が根本にありました。しかし、少子化を背景に「日本人学生が確保できないから留学生で埋め合わせる」というだけの発想になっていないでしょうか。外国人留学生と日本人学生をフラットに見て「学生の成長のためには何をすべきか」を考えることが、今後の教育の充実を図るうえで、不可欠になっていくはず。企業においては、外国人を「外国人枠」ではなく、日本人と同じ枠で採用試験を実施しているところも出始めています。成長企業になるためには、日本人、外国人の区別なく、優秀な人材の確保が必要という考えがあるからです。大学においても、然りではないでしょうか。

【図表14】大学探しの際に難しいと思うこと



*「Japan Study Support」ユーザー調査2023(n数：441)